

# 地ビール等製造業の概況

(平成30年度調査分)

ビール又は発泡酒の製造免許（試験製造免許のみを有する者を除く。）を有している者（平成31年3月31日現在）を対象にアンケート調査（ビール・発泡酒製造業者実態調査）を行い、その集計結果を取りまとめた。

## ○ 調査対象期間

法人については平成31年1月1日直前終了事業年度分（1事業年度が6か月の場合は2事業年度）、個人については平成30年分とした。

## ○ 各表等の注意事項

- (1) 各表の計数は、単位未満を四捨五入しているため、表の内容と計又は合計が一致しない場合がある。
- (2) 単位未満の計数は「0」、該当する計数のない場合は「-」と表示している。
- (3) 各表の計数は、図表10を除き、大手5社（アサヒビール株式会社、オリオンビール株式会社、麒麟麦酒株式会社、サッポロビール株式会社及びサントリービール株式会社）を除いた計数である。
- (4) 各表の計数はビール・発泡酒製造業者実態調査によるものであり、各年度によって必ずしも回答者が同一ではないため、経年比較の計数は参考値である。

令和2年6月

国税庁課税部酒税課

### 3 発泡酒製造業

#### (1) 製造業者数

調査対象である発泡酒の製造業者数(注1)は265者(うちビール製造も行っている製造業者は221者)、回答者数は230者(回収率86.8%)であり、回答者のうち227者(98.7%)が中小企業者(注2)である。

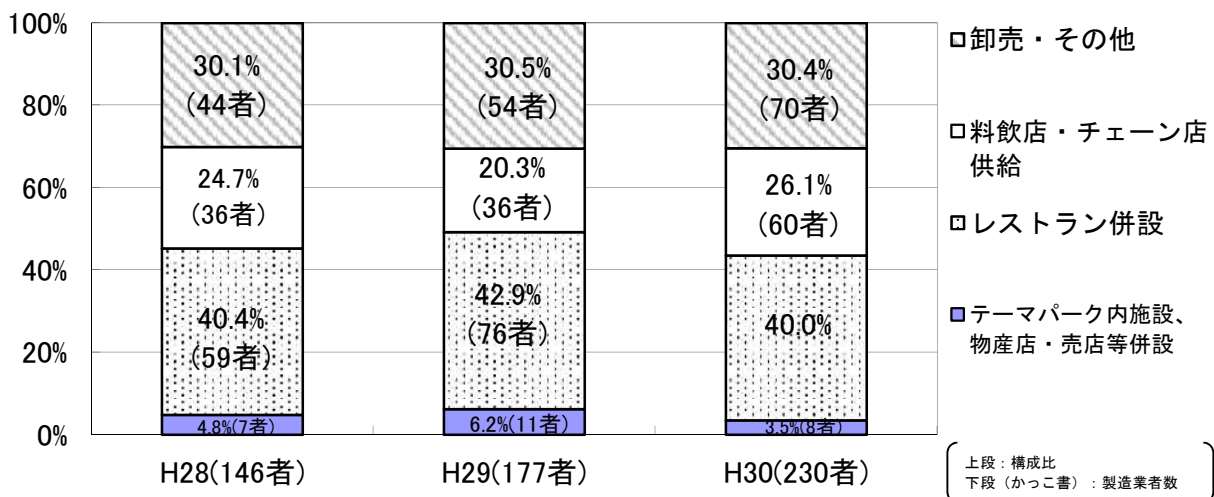
販売形態別ではレストラン併設形態が92者(40%)と最も多く(図表24)、事業割合別では発泡酒事業割合(注3)10%未満の者が161者(70%)であり(図表25)、製成数量規模別では10klに満たないの者が177者(77%)となっている(図表26)。

(注)1 調査対象期間中に、発泡酒の製造及び移出の事績がない者又は発泡酒の売上がない者については、調査対象者から除いている。

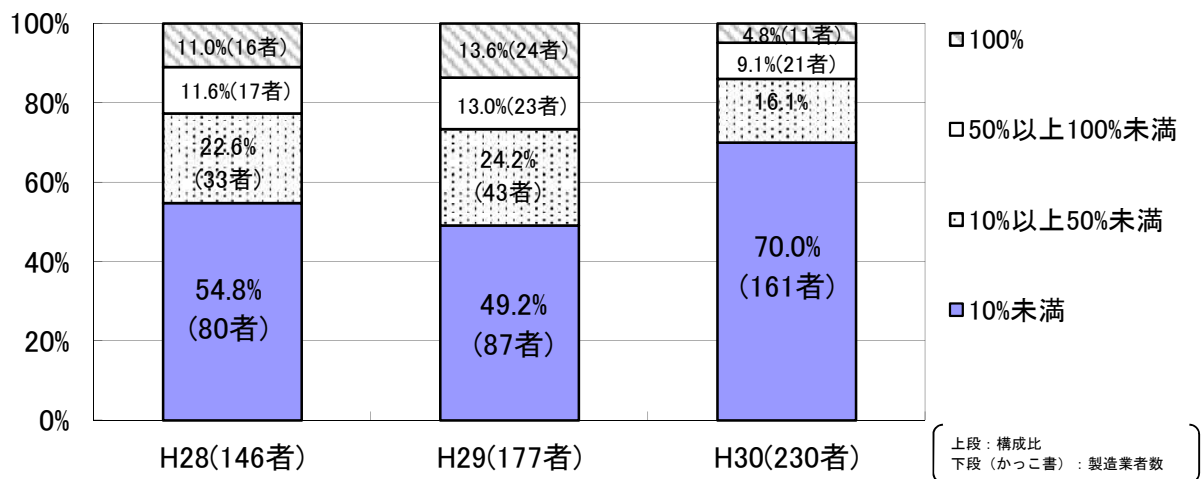
2 資本金3億円以下の会社並びに従業員300人以下の会社及び個人をいう(中小企業基本法第2条第1項第1号)。

3 総売上高のうち発泡酒事業に係る売上高が占める割合である。

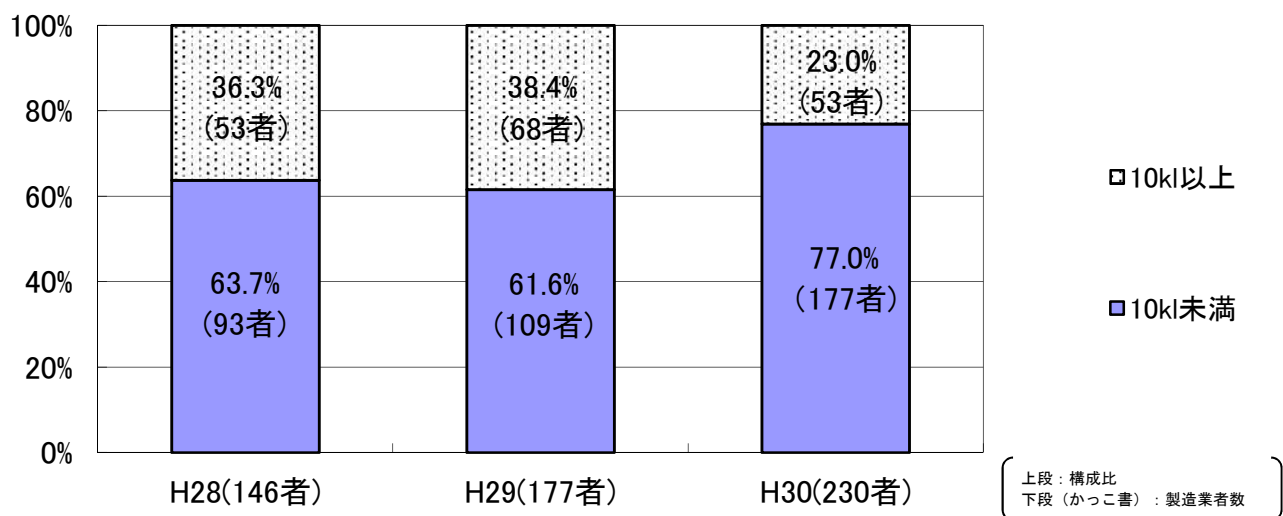
図表24 販売形態別構成比



図表25 発泡酒事業割合別構成比



図表26 製成数量規模別構成比



(2) 経営状況

発泡酒事業の売上高は、1者当たり14.7百万円(回答者合計で2,652百万円)であり、前年度調査(H29)と比較して、1者当たりの売上高が8.4百万円(36.4%)減少している。

営業利益の額は、1者当たり1.1百万円(回答者合計で196百万円)であり、前年度調査(H29)と比較して、1者当たりの営業利益の額が1.6百万円(59.3%)減少している。

発泡酒事業のみ行っている者とビール事業を兼業している者との経営状況を比較すると、ビール事業を兼業している者の1者当たりの売上高は発泡酒事業のみ行っている者より8.9百万円高く、営業利益の額は2.6百万円高い(図表27)。

図表27 経営状況

(単位：者、百万円)

区分	企業数	売上高	売上総利益	営業利益
H28	136	(28.3) 3,852	(11.8) 1,598	(1.8) 241
H29	176	(23.1) 4,071	(10.9) 1,914	(2.7) 479
H30	180	(14.7) 2,652	(6.1) 1,096	(1.1) 196
発泡酒のみ	36	(7.6) 275	(4.2) 151	(△1.0) △38
ビール兼業	144	(16.5) 2,378	(6.6) 945	(1.6) 233

(注)1 回答者のうちビール・発泡酒事業に係る各計数に記載のある者のみ掲げている。

2 かっこ書は1者平均値である。

1者当たり販売形態別の経営状況を前年度調査(H29)と比較すると、全ての区分で売上高は減少しており、卸売・その他以外の区分は営業利益も減少している(図表28)。

図表28 1者当たり販売形態別経営状況

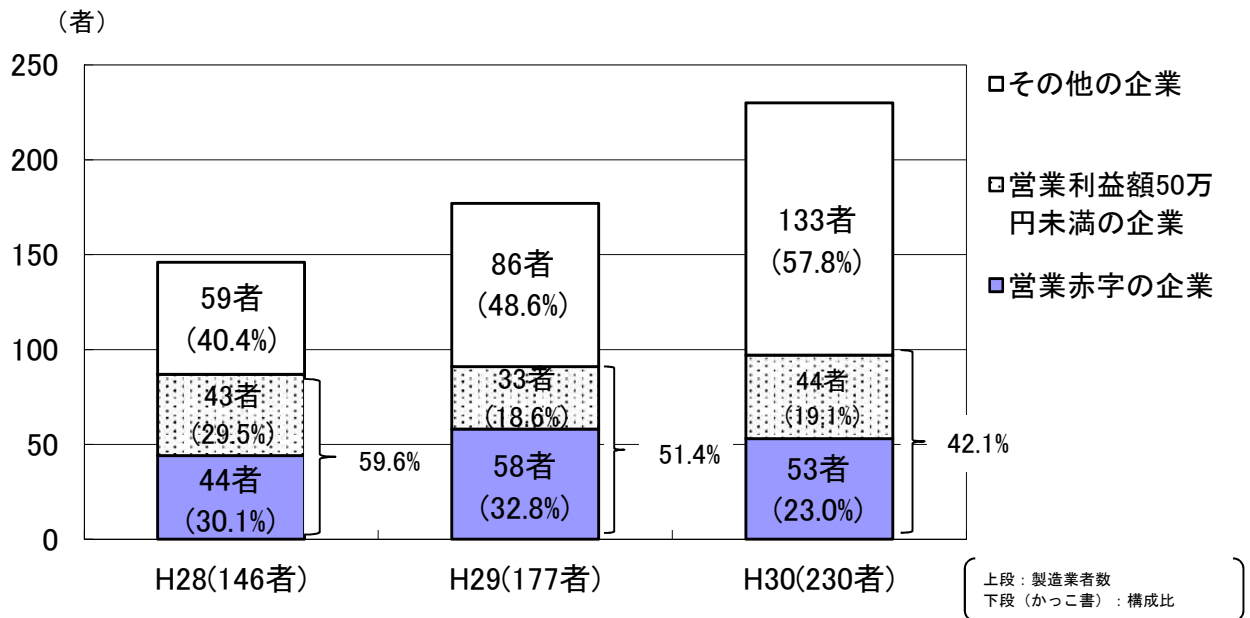
(単位:百万円)

区分	テーマパーク内施設、物産店・売店等併設					レストラン併設				
	H28	H29		H30		H28	H29		H30	
		対前年比	対前年比	対前年比	対前年比		対前年比	対前年比		
売上高	12.2	11.7	96.2%	2.8	23.9%	20.5	16.9	82.6%	8.3	49.0%
売上総利益	6.4	7.5	117.5%	△ 0.0	—	10.8	10.1	93.8%	4.3	42.4%
営業利益	△ 1.7	0.3	—	△ 0.3	—	2.2	3.8	172.3%	1.3	34.3%
区分	料飲店・チェーン店供給					卸売・その他				
	H28	H29		H30		H28	H29		H30	
		対前年比	対前年比	対前年比	対前年比		対前年比	対前年比		
売上高	17.6	18.9	107.2%	6.9	36.6%	50.2	36.6	72.9%	30.1	82.2%
売上総利益	9.4	10.0	106.9%	3.5	34.8%	15.8	12.9	82.0%	11.0	84.9%
営業利益	0.4	2.6	643.8%	0.1	3.9%	3.0	1.7	58.2%	1.8	103.1%

(注) 回答者のうち発泡酒事業に係る計数に記載のある者のみ掲げている。

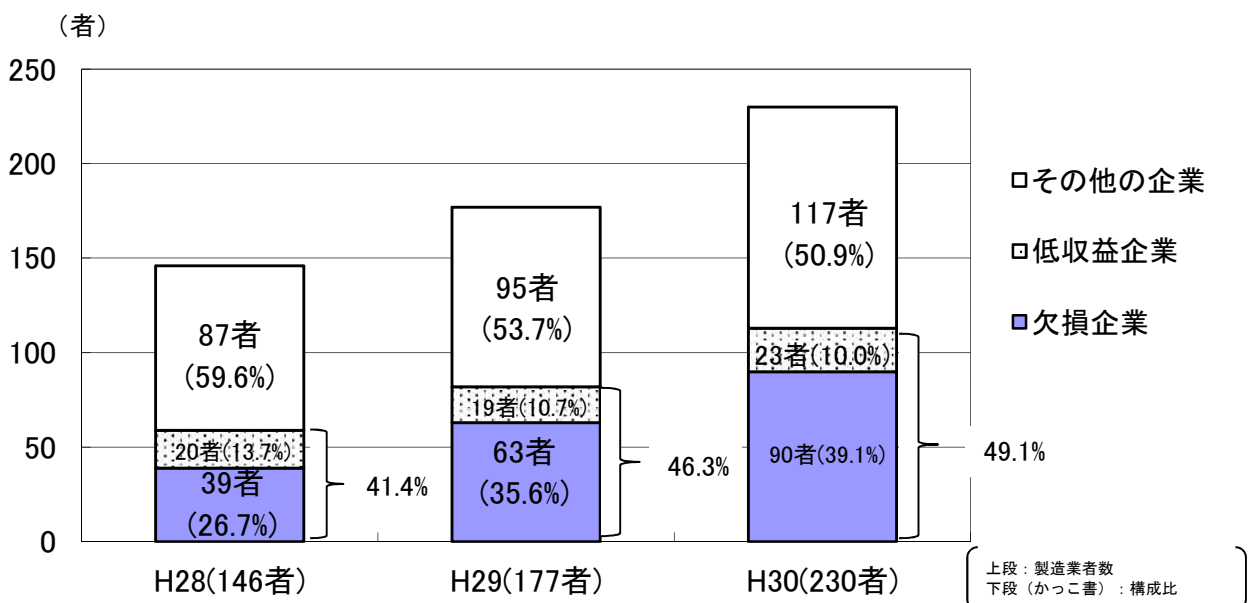
発泡酒事業に係る営業利益をみると、前年度調査(H29)と比較して、営業赤字となる企業の割合が減少しており、営業利益額50万円未満の企業を含めた割合も減少している(図表29)。

図表29 発泡酒事業の営業赤字、営業利益額50万円未満及びその他の企業数の推移



企業全体の税引前利益(発泡酒事業以外の事業を含む。)をみると、前年度調査(H29)と比較して、企業全体に占める欠損企業の割合は増加しており、低収益企業(税引前利益額50万円未満の企業)を含めた割合も増加している(図表30)。

図表30 欠損、低収益及びその他の企業数の推移

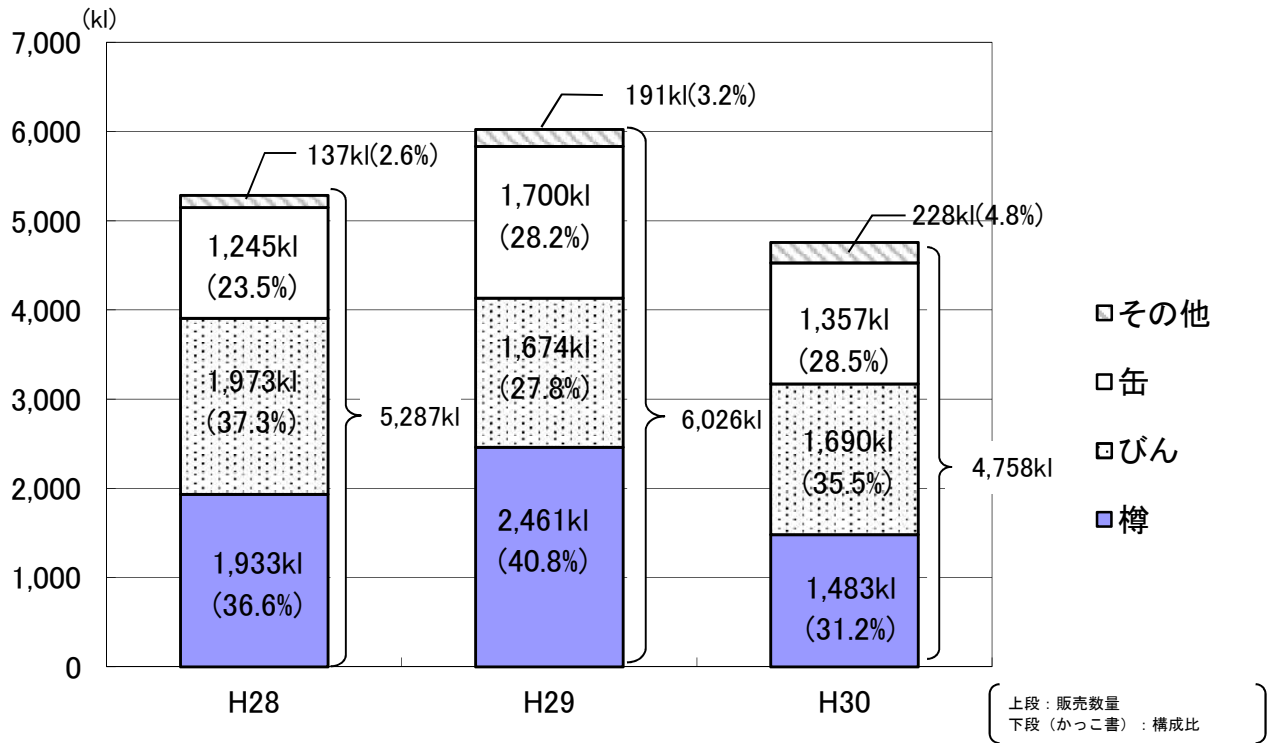


(注) その他の事業部門を含めた事業全体に係る計数である。

(3) 容器別販売状況

容器別の販売状況を見ると、びん製品が全体の35.5%と最も大きい割合を占めている(図表31)。

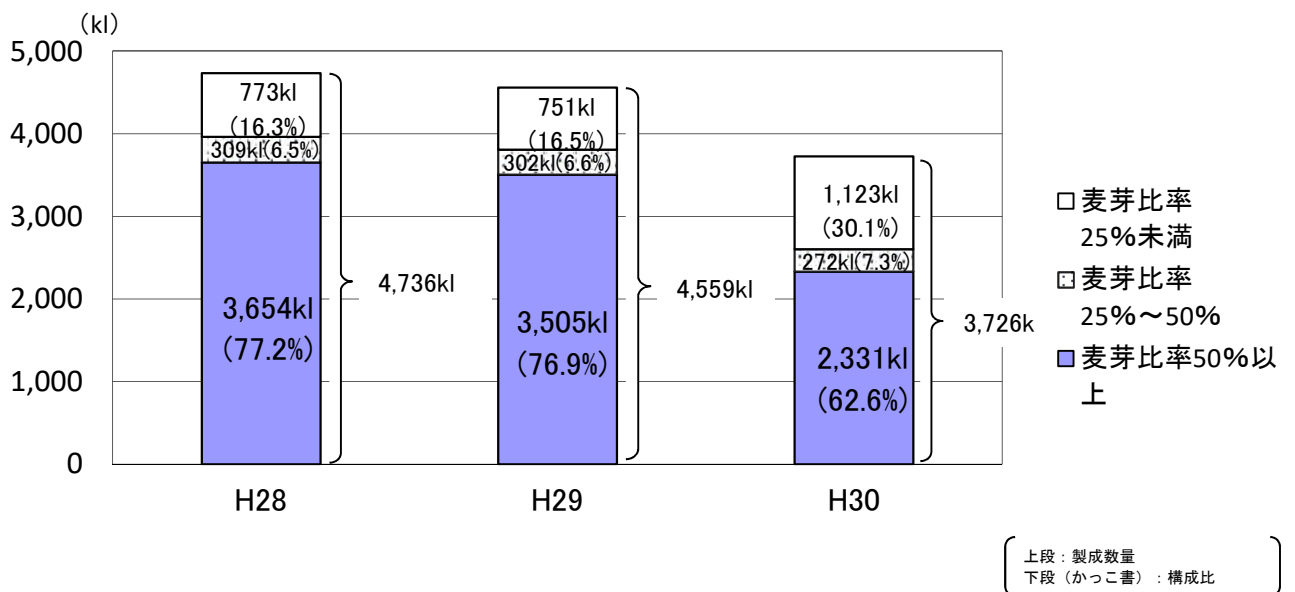
図表31 容器別販売数量



(4) 麦芽比率別製成状況

麦芽比率(原料に占める麦芽の重量の割合)別の製成数量を見ると、麦芽比率50%以上の発泡酒の割合が62.6%を占めている(図表32)。

図表32 麦芽比率別製成数量

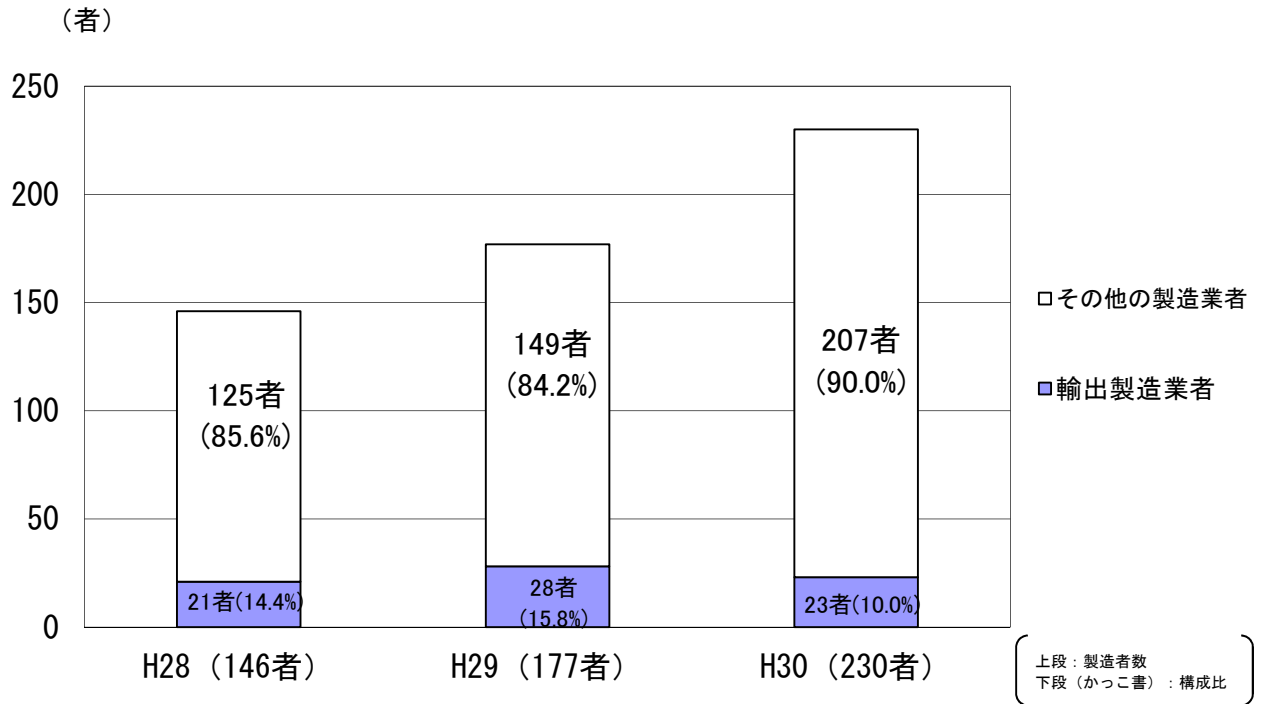


(5) 輸出の状況

輸出製造業者(注)の状況を見ると、輸出製造業者数は前年度調査(H29)と比較して、5者減少しており、全体に占める輸出製造業者の割合も5.8%減少している(図表33)。

(注) 回答者のうち、発泡酒の輸出数量欄に記載があった発泡酒製造業者をいう。

図表33 輸出製造業者とその他の製造業者の推移



発泡酒の国内販売数量と輸出数量(注)をみると、前年度調査(H29)と比較して、輸出数量は減少しているものの、輸出数量の割合は0.8%増加している(図表34)。

(注) 輸出製造業者が輸出した発泡酒の合計数量である。

図表34 国内販売数量と輸出数量の推移

